

# とっとりインターンシップ 25年度状況報告と 26年度夏季受入に向けて

- 25年度インターンシップ結果報告
- 学生アンケート結果まとめ
- 企業アンケート結果まとめ
- 今夏受け入れに向けてのお願い

2026年5月27日

鳥取県中小企業団体中央会  
とっとりインターンシップ推進事業

# 2025年度インターンシップ結果報告

過去最高!

◆25年度 参加学生数：441名（県内大学 237名、県外大学204名） ※延べ数

地域別：東部企業-242名、中部企業-70名、西部企業-115名、他(県外に本社)-14名

【四半期毎内訳】

<県内外別>

(学生数：人)	新緑	夏季	秋冬	春季	計
県外大学	3	139	9	53	204
県内大学	3	156	10	68	237
計	6	295	19	121	441

<学年別>

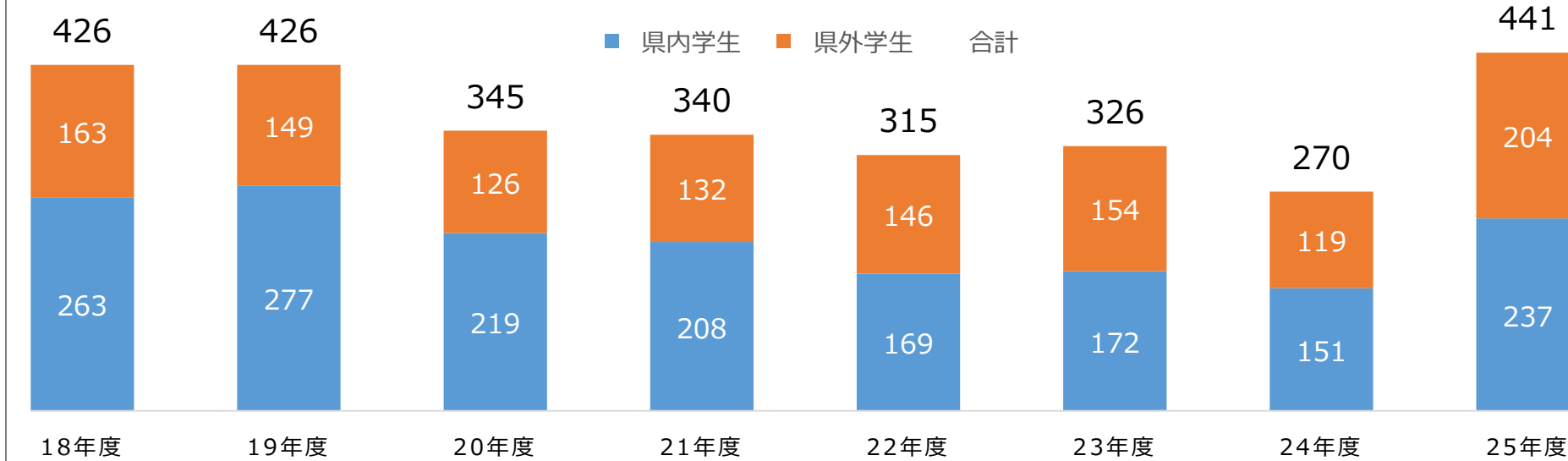
(学生数：人)	新緑	夏季	秋冬	春季	計
専門・短大等		58	1	49	108
大学1年		53	1	8	62
大学2年		32		10	42
大学3年	5	137	16	47	205
大4年以上	1	15	1	7	24
計	6	295	19	121	441

◆受入企業数： 87社（東部-46社、中部-12社、西部-27社、他-2社） ※単独での受入社数

パッケージ型：13パッケージ（東部-4パッケージ、中部-4パッケージ、西部-5パッケージ）

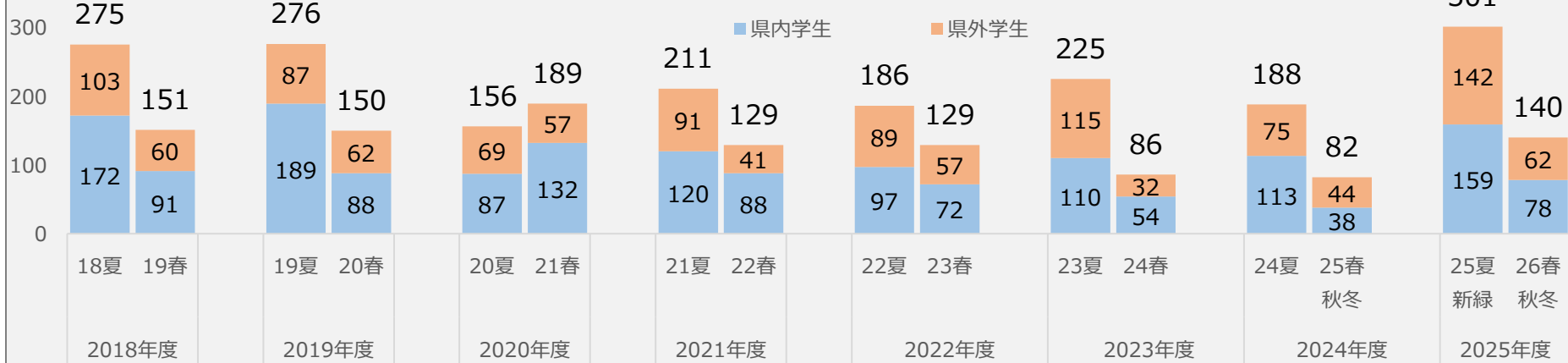
# 参加学生数、登録・受入企業数 推移

＜年度別＞ インターンシップ参加学生数 推移（延べ数）



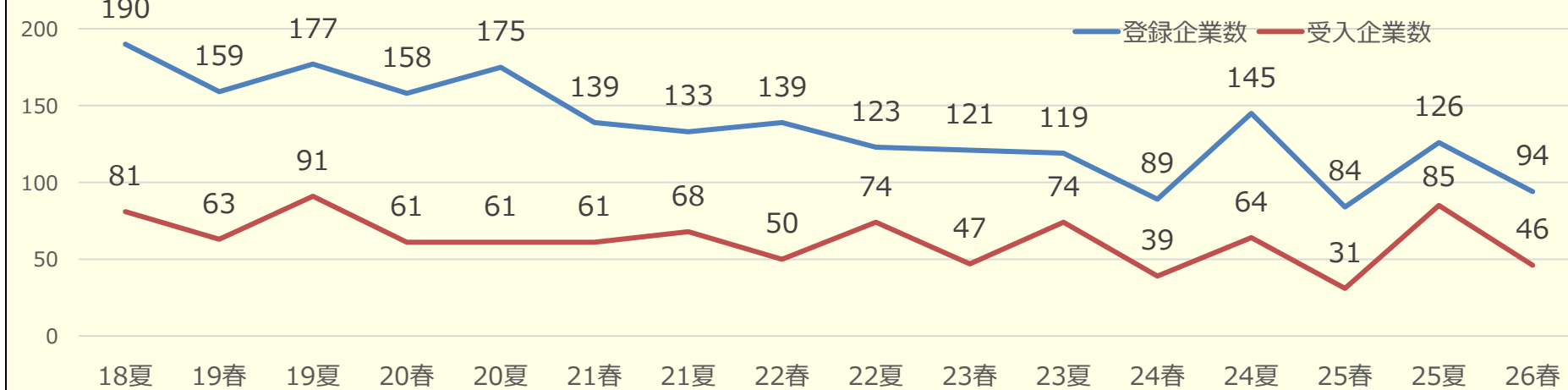
参加者数は、コロナ禍からの回復基調の中で、25年度は交通費・宿泊費全額助成の影響も寄与もして、県外学生の大幅増加が全体伸長を牽引し過去最高を更新

＜期毎＞ インターンシップ参加学生数 推移（延べ数）



春の参加者数は夏と比較して規模は小さいが就活早期化の影響で、就職先の選択行動が具体化し安定推移

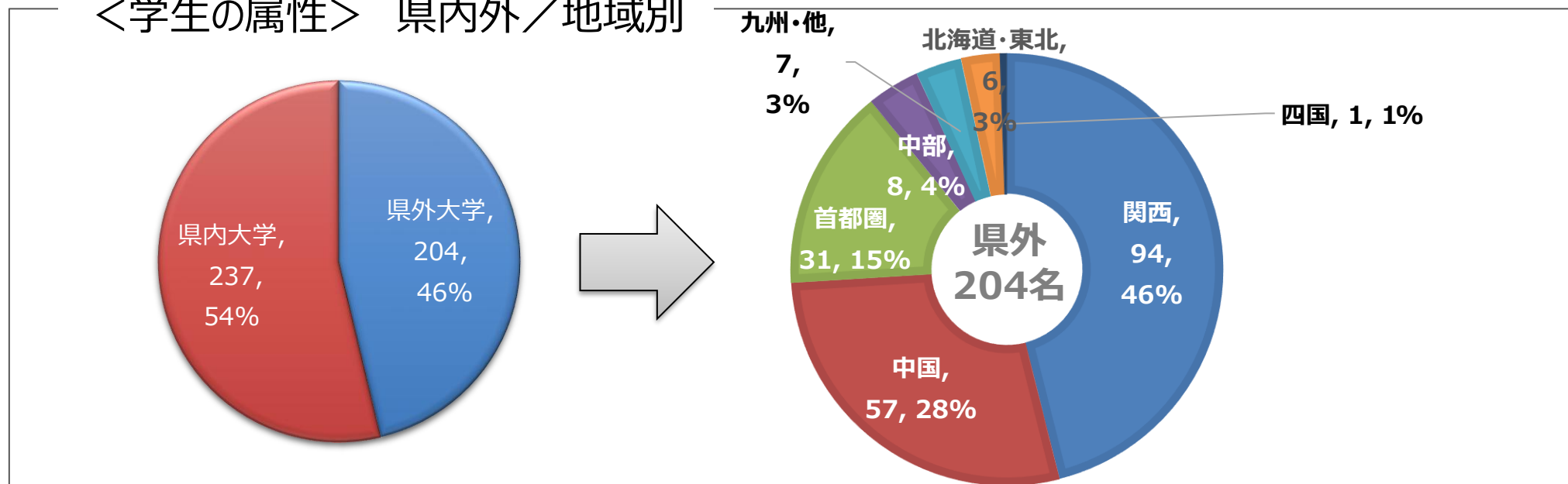
＜期毎＞ 企業 登録・受入数推移



登録企業数・受入企業数は中長期的に減少基調で推移しつつ、近年は需要や受入体制の影響により増減を繰り返す傾向が継続している

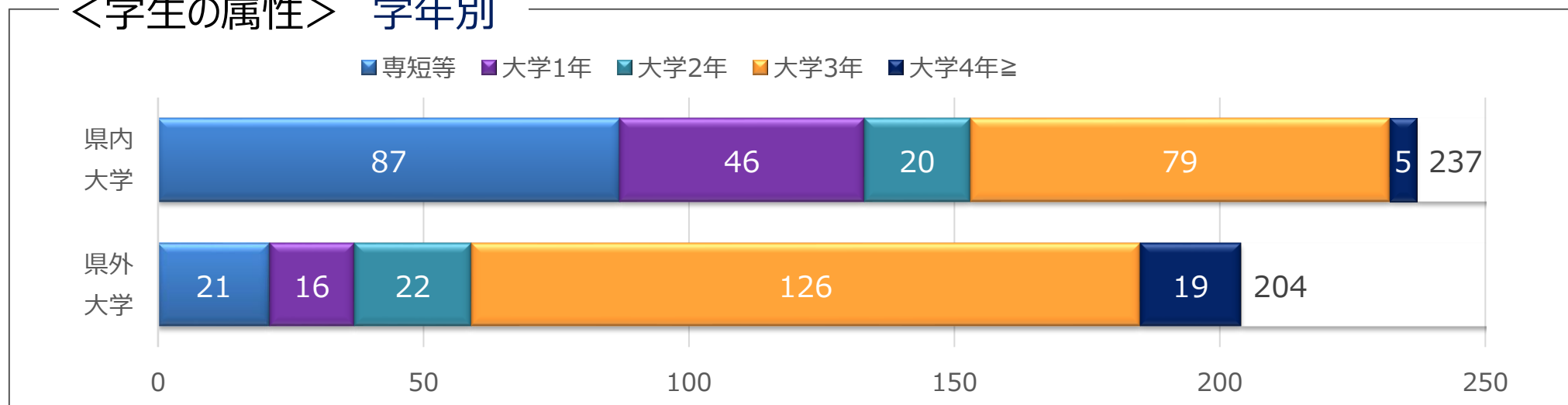
# 参加学生の属性、会社を知ったきっかけ

＜学生の属性＞ 県内外／地域別



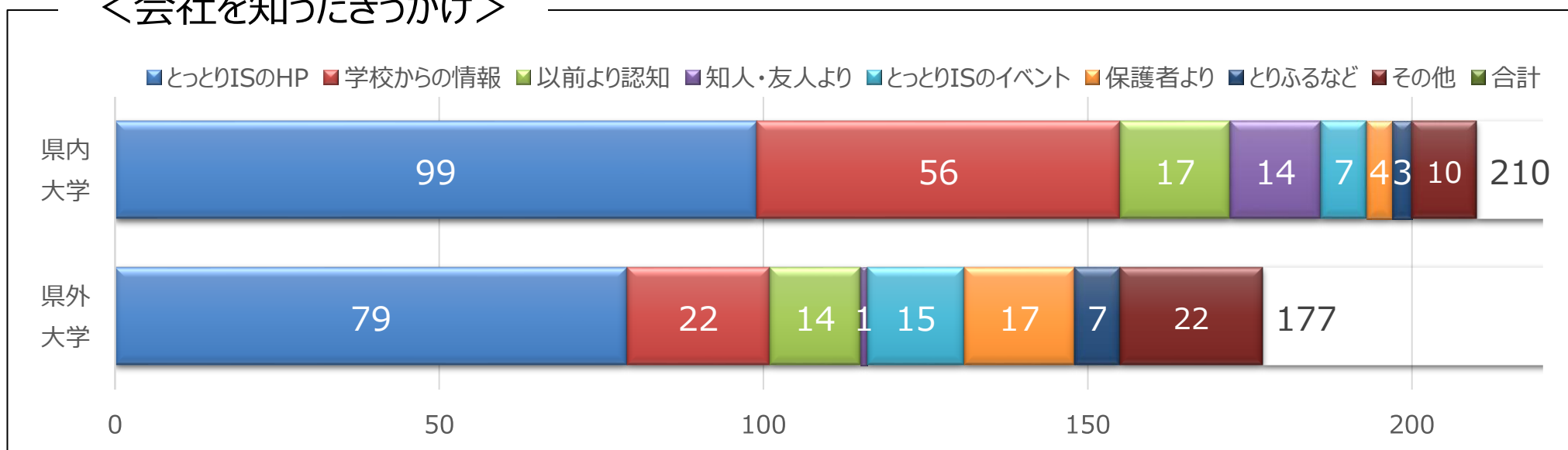
25年度は関西圏が94名で県外の約半数を占め、続いて中国、首都圏の順に多く、特に首都圏は大幅に伸長※全額助成の効果

＜学生の属性＞ 学年別



県内は短大生から3年生まで幅広い学年が参加  
県外は3年生の割合が高く就職を意識した参加傾向が見られる

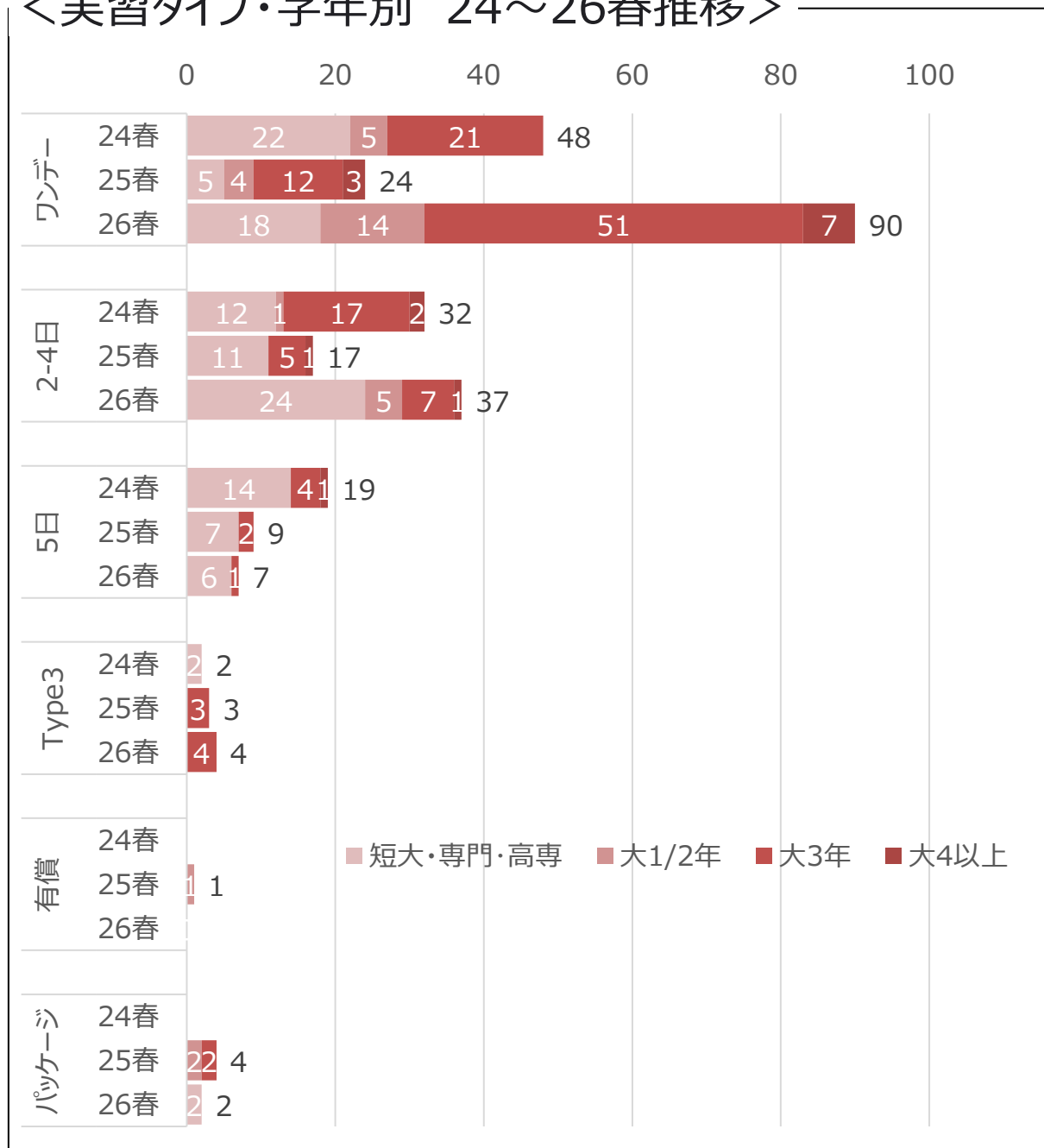
＜会社を知ったきっかけ＞



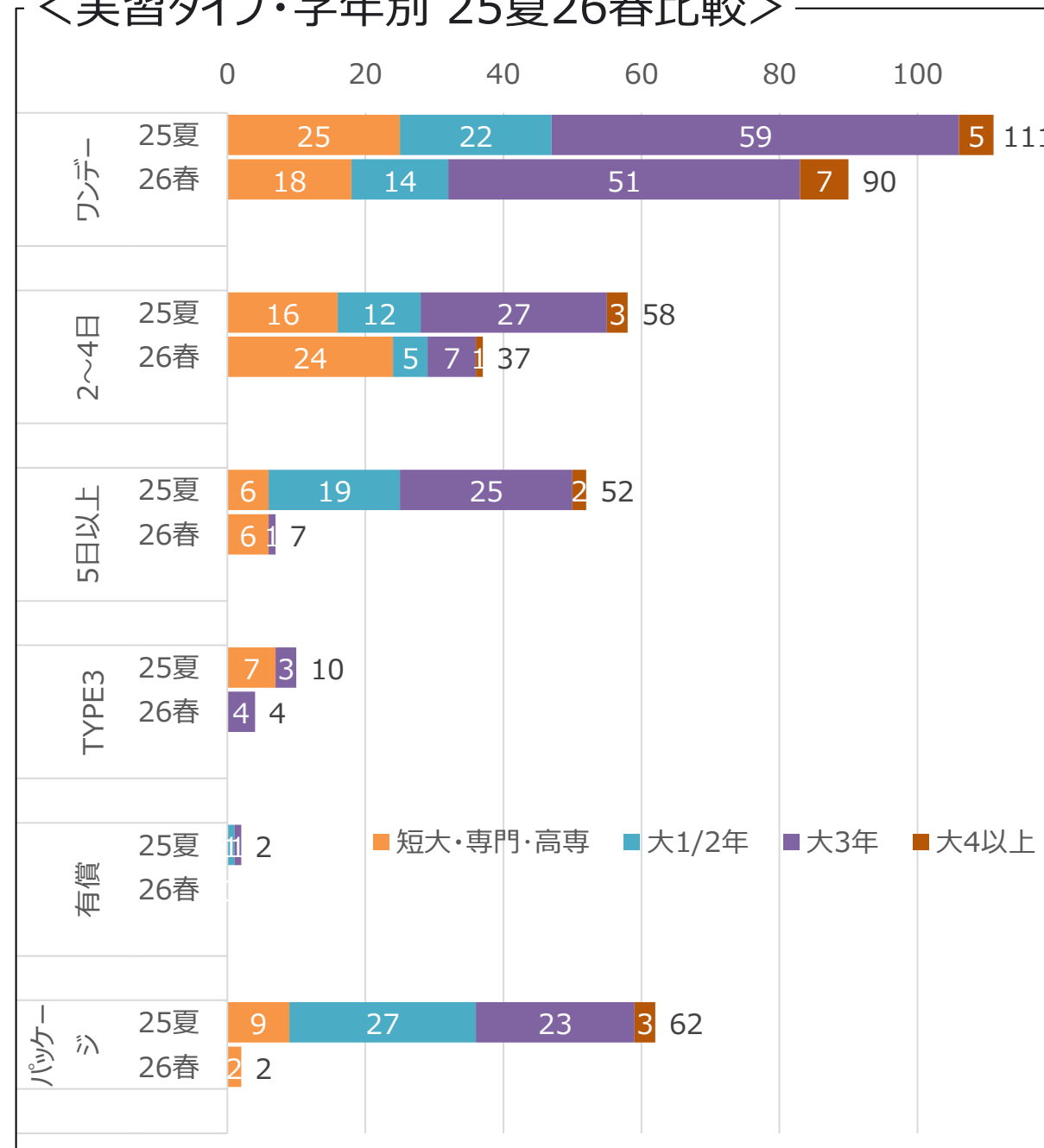
企業認知は県内外ともに「とっとりIS」のHPが中心だが、県内は学校情報依存が強い  
県外は友人・イベントなど多様な経路が目立つ、また保護者など人脈経由も一定数あり

# ■ 25年度の主な特徴 (24~26春推移、25夏26春比較)

＜実習タイプ・学年別 24~26春推移＞



＜実習タイプ・学年別 25夏26春比較＞

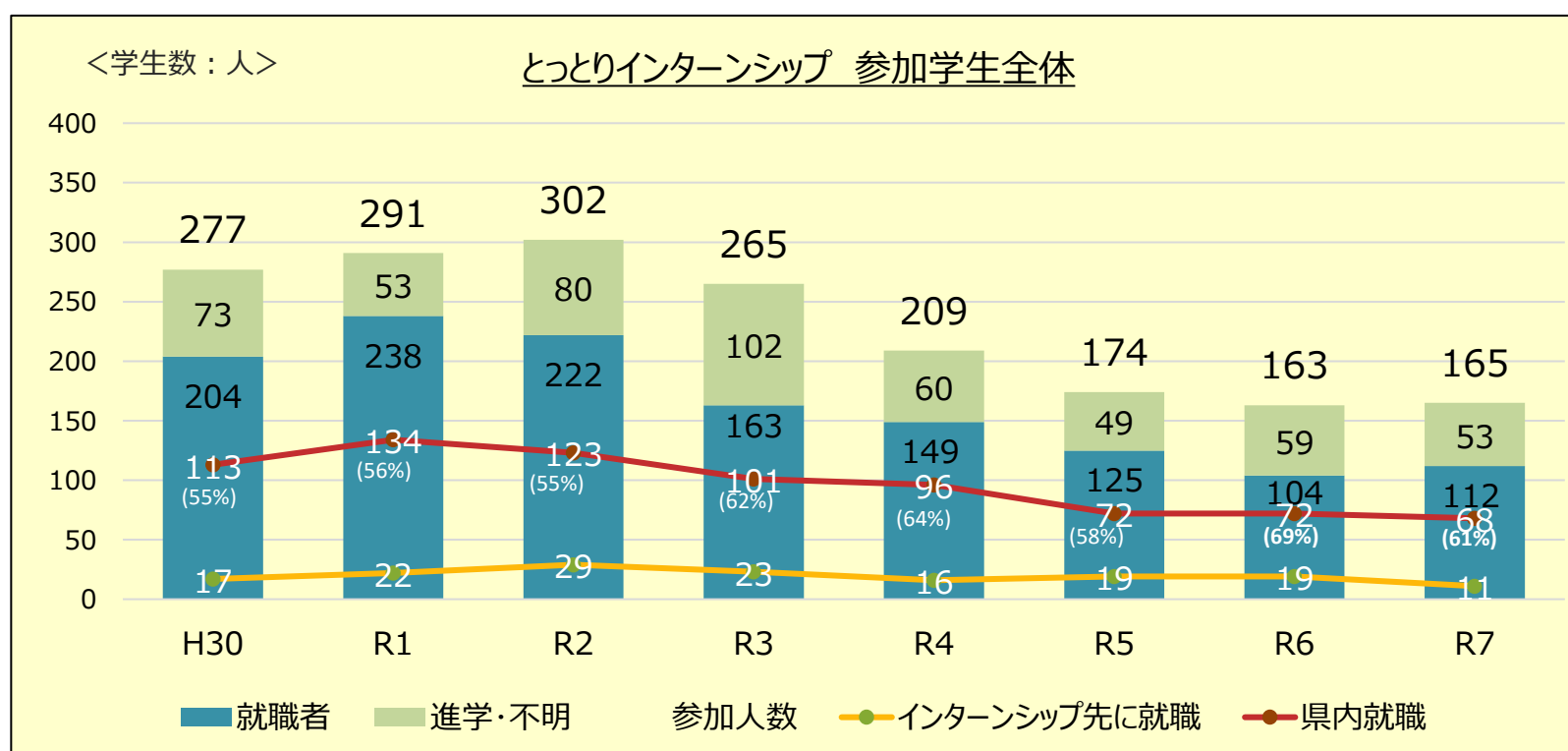


実習タイプ・学年別の推移を見ると、全体として5日は減少しワンデー、2~4日が中心となる一方で、26春では低学年参加が増加し学年の裾野が広がる傾向が見られる

25夏は2~4日型中心で3年生以上の就活準備層が多く実務志向が強い一方、26春は1day型や低学年参加が増加しつつ3年生は選択確認目的として安定的に参加

# 参加学生の卒業後進路調査

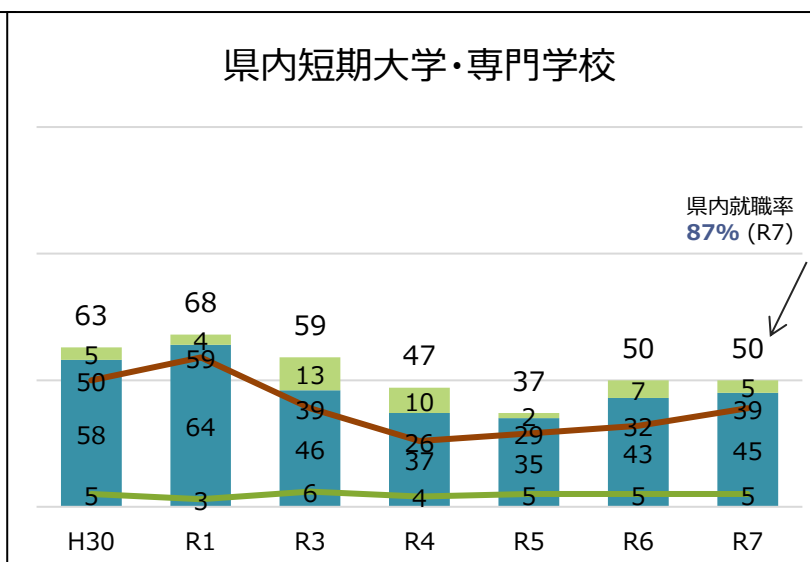
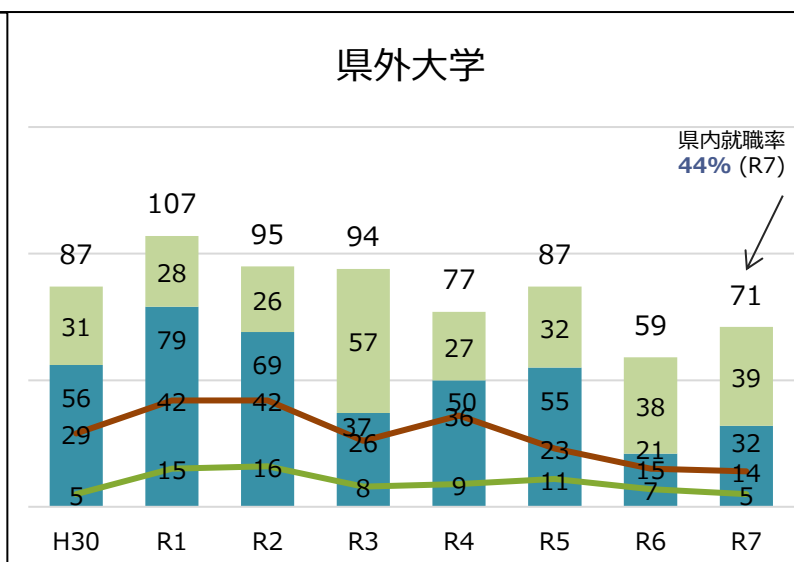
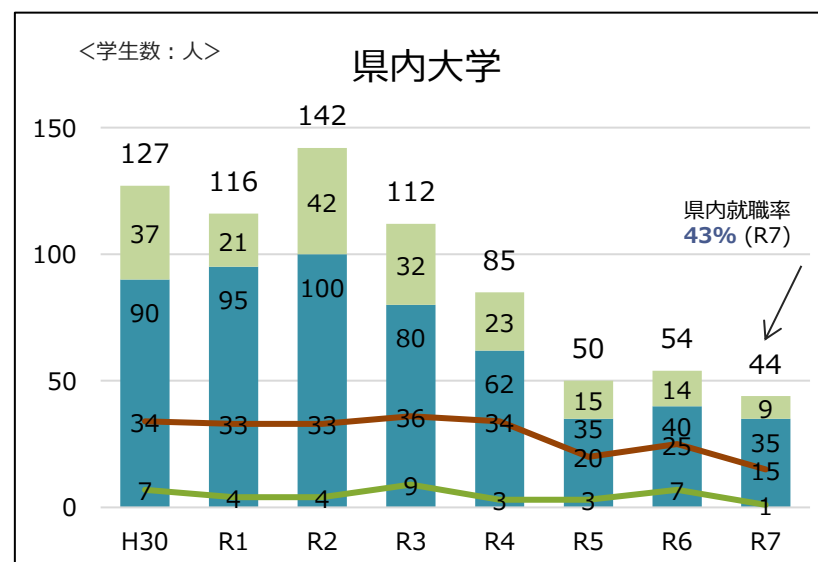
- とっとりインターンシップ参加学生の就職状況は、全体として県内就職率が県の調査結果を上回る水準で推移しており、地域定着に一定の効果が見られる
- 県内大学生については、県調査と比較して概ね同程度～やや高い水準で推移しており、コロナ禍以降は県内定着率の回復・改善傾向はあるが、今年は昨年に比べると低下（R6年度：63%→R7年度：43%）
- 県外大学生については、継続して5割前後以上が県内就職しており、県外学生の受入が県内人材確保において重要な役割を果たしているが、県外についても昨年より低下（R6年度：71%→R7年度：44%）



【参考】

1. 県内大学等卒業者の県内就職率は**28.2%**（前年比▲0.7%）  
 鳥取大学：16.9%、  
 公立鳥取環境大学：20.0%、  
 鳥取短期大学：81.9%  
 米子高専：8.5%
2. 県外大学等に進学した鳥取県出身者のUターン就職率は**30.8%**  
 地区別 中国：約4～5割、関西：約2～3割、関東：10%以下  
 ＜出典＞鳥取県「総務教育常任委員会資料（令和7年12月）」

＜内訳＞



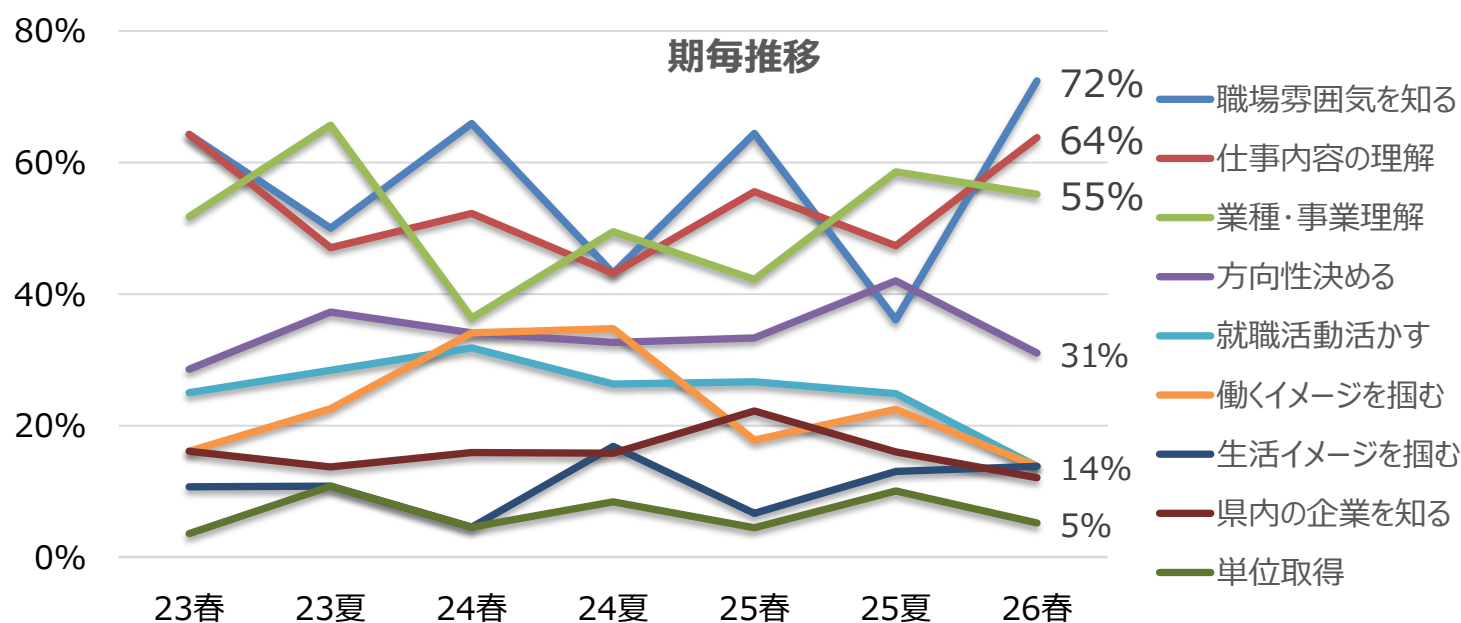
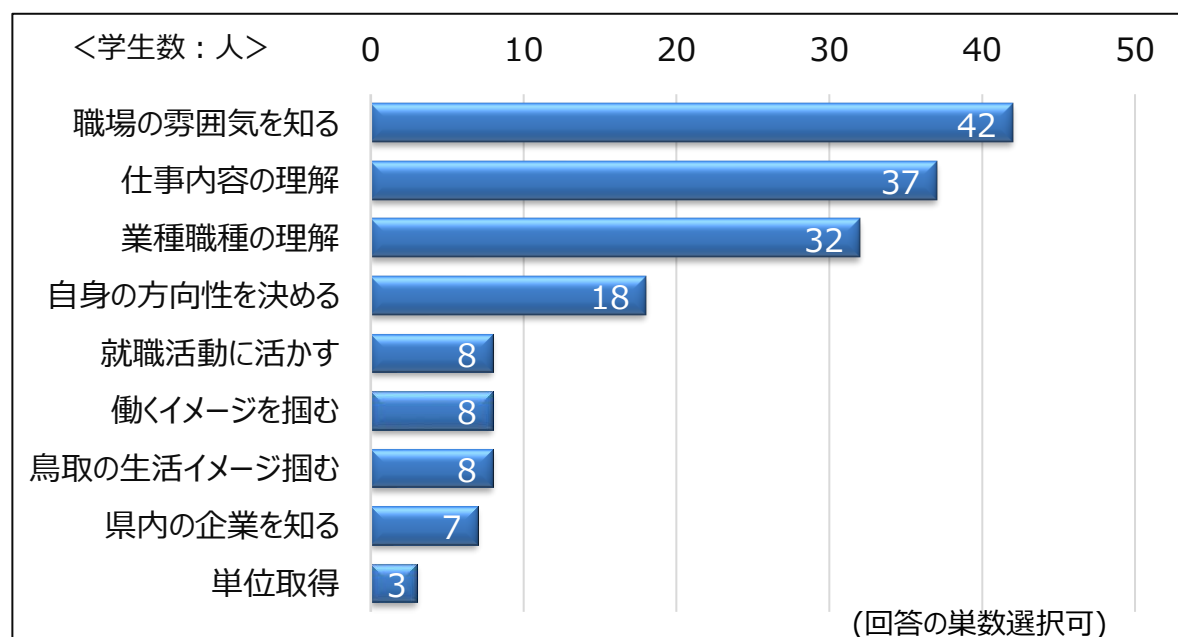
# 学生アンケート結果

- ◆アンケート方法 : 学生の実習終了後、随時GoogleFormよりオンライン回答
- ◆アンケート回答数 : 58名 (依頼 : 94名) 回収率 62% ※氏名無記入方式で回答依頼

- 参加前の状況 (参加目的、選択重視項目)
- 参加後の感想 (満足理由、良かったこと)
- 今後の希望、参加して気になったこと
- まとめ (参加データ/学生アンケートより)

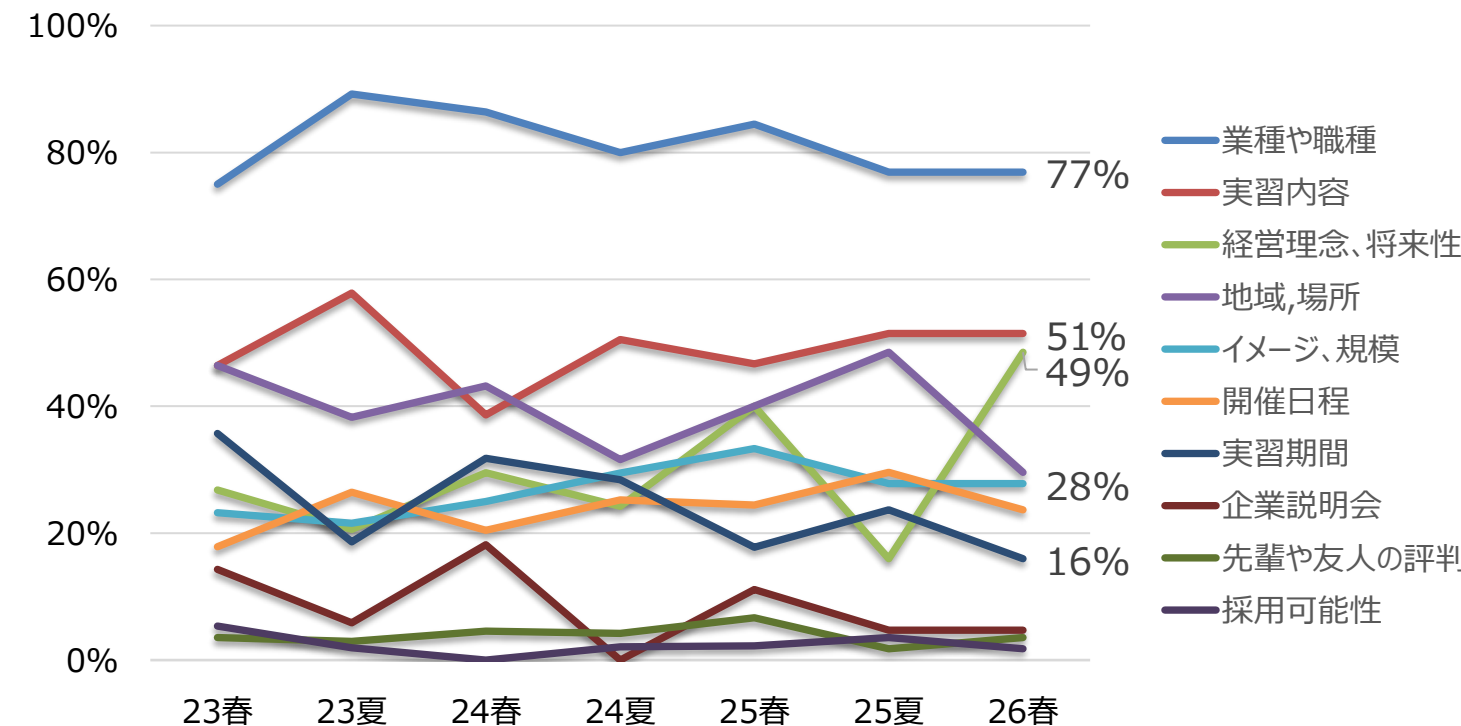
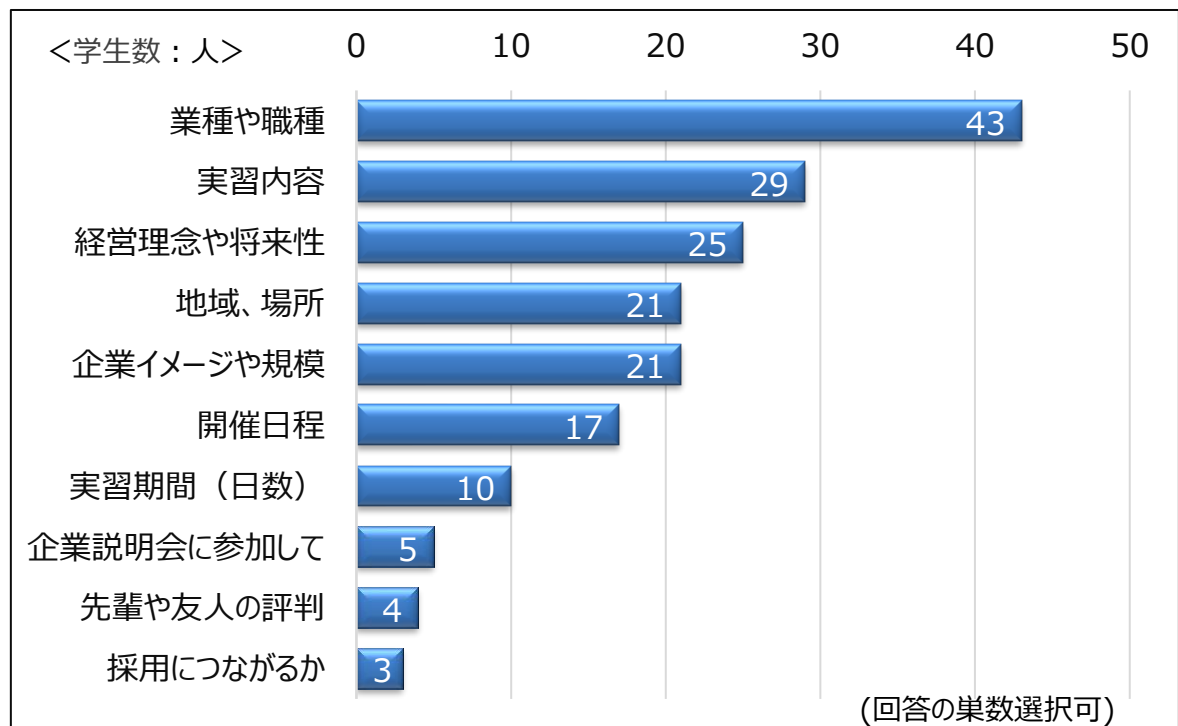
# 参加前の状況（参加目的、選択重視項目）

## インターンシップ参加目的



参加目的は「仕事・業界理解」を中心に年々明確化し、学習・情報収集志向が継続して強い傾向  
夏は幅広い業種理解、春は夏経験を踏まえ候補企業を見極める就活準備型の傾向がやや強い

## 企業選択で重視したこと



企業選択は「業種・職種理解」「実務内容」「地域性」を中心に重視される傾向が安定しており、ミスマッチ回避志向が強い  
夏は実務内容や職場理解を重視する傾向が強く、春は経営方針や企業イメージなど選考寄り・比較検討要素が相対的に大きい

# 参加後の感想 (満足理由、良かったこと)

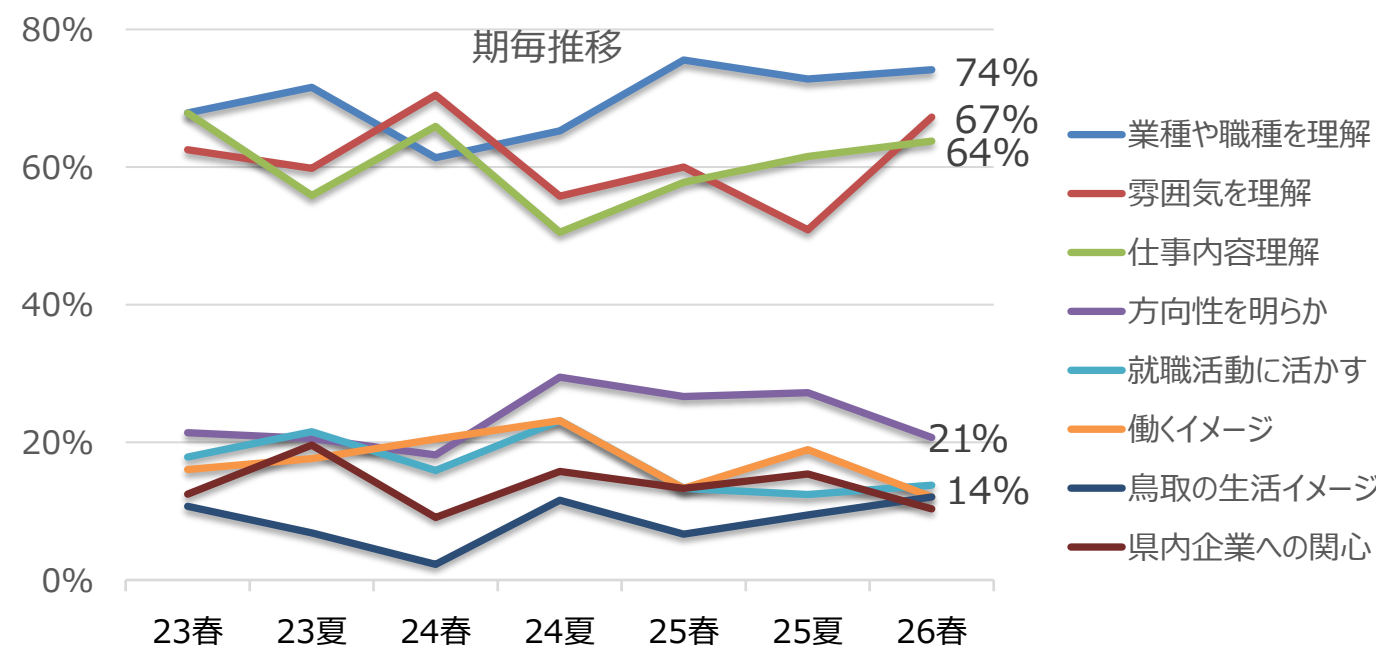
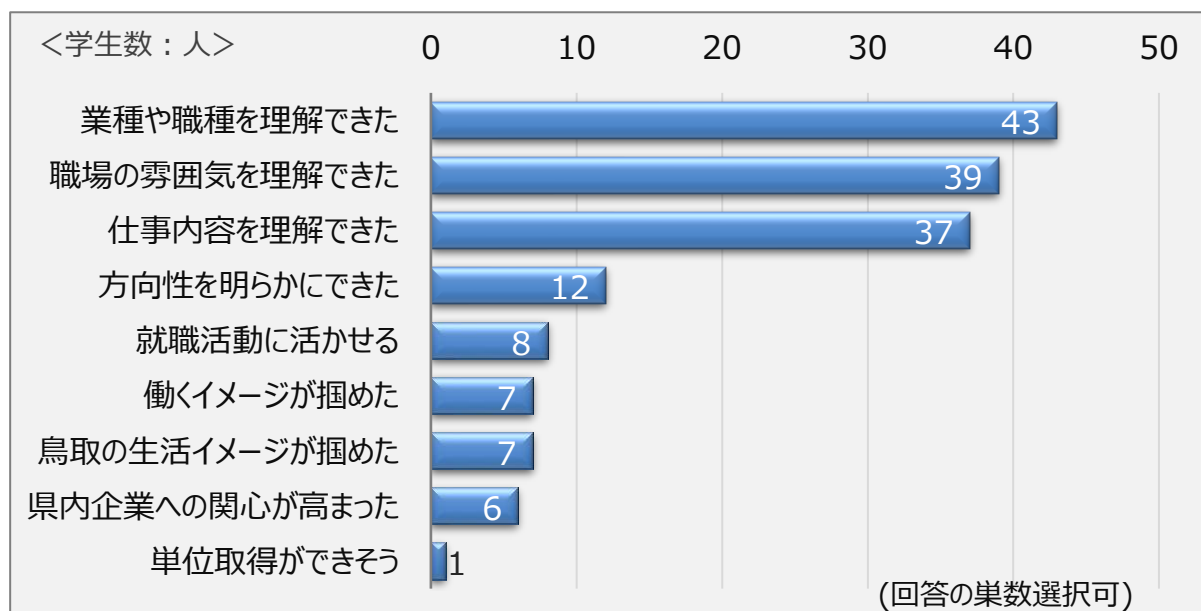
## 参加しての満足度



学生の参加満足度は「大満足・やや満足」が大半を占めており、実務体験や職場理解、社員との交流を通じた学びが高評価につながっている

「とっとりインターンシップ」に参加して 満足した理由 (学生コメント)		
実務体験・仕事内容理解 (25件)	社員対応	・ 企業の方が熱心に指導して下さったから
	キャリア形成	・ 経験のない人でも活躍できるというイメージが湧いた
	運営・サポート	・ インターン参加までのサポートが手厚く、県外からの参加でも安心して取り組めた
	交流・楽しさ要素	・ ロールプレイで英語を教えたことが楽しかった ・ 楽しかったのと、自分の役に立ったという感覚がある
職場雰囲気・企業理解 (9件)	その他 (7件)	・ 文字だけでは知ることのできない細かい部分まで知ることが出来た ・ 質疑応答で聞きたいことが聞けた ・ 地元のことをもっと知れた ・ 気になっていた企業の理解が深まった

## 参加して良かったと思うこと

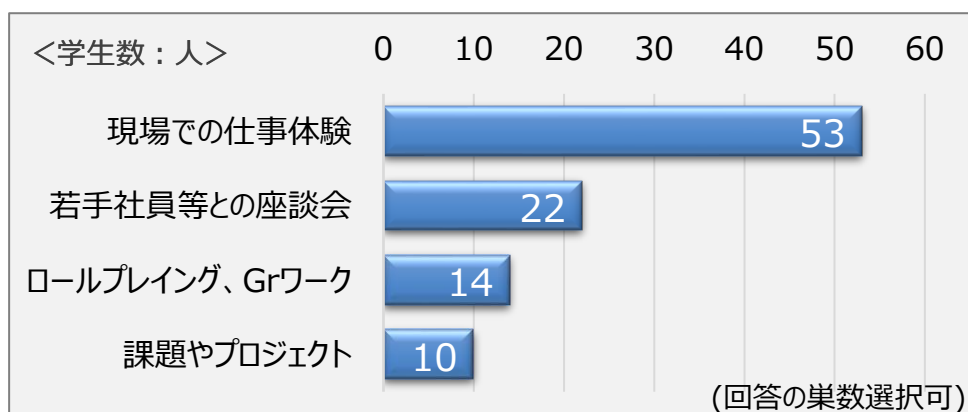


参加して良かった点は「業種・職種理解」「仕事理解」「職場理解」が中心で、実務体験による理解深化が満足度向上に直結  
夏は業界・仕事の具体理解、春は職場理解や働くイメージ形成など、理解の深さと焦点に違いが見られる

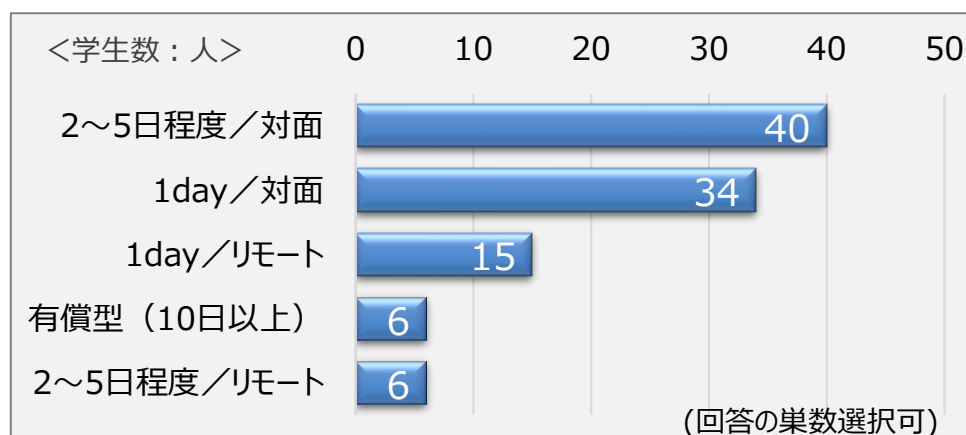
# ■ 今後の希望、参加して気になったこと

26春

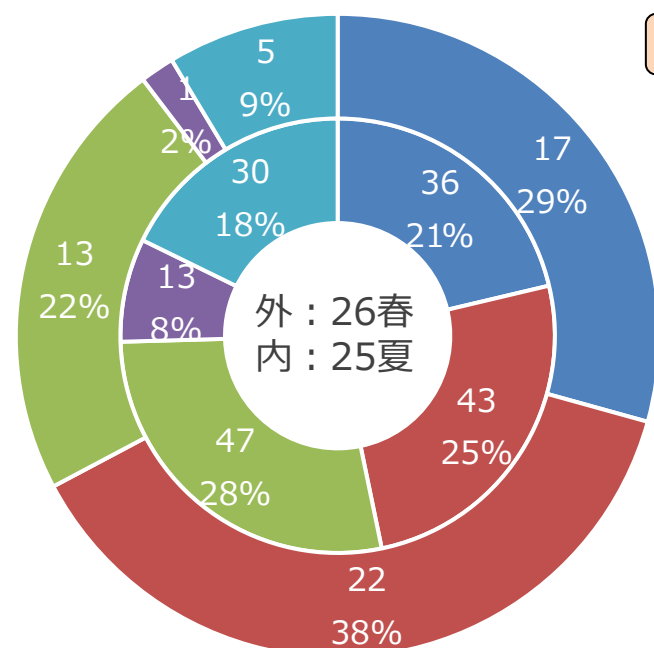
今後参加したいプログラム



次回の参加希望形態



参加プログラムは現場体験志向が、従来より最も強く、実務体験ニーズが中心  
日数では2～5日型が中心だが、今春は1dayも増加、一方リモートは減少傾向が続く



卒業後の進路

- 県内就職で決めている
- 県内で希望条件に合えば
- 職種、条件で決める
- 大都市圏就職希望
- 未定

<県内で決めている>  
出身別

県内出身	県外出身
15 (34)	2 (2)

<条件よければ県内で>

県内出身	県外出身
15 (29)	7 (14)

※ ( ) 内は24夏の回答数

県内出身は県内志向、県外出身は県外志向が中心、26春は未定層の減少とともに進路選択が具体化してきて県内企業を検討する割合も増加

## 「とっとりインターンシップ」に参加を通して気になったこと改善して欲しい点

- 自分が参加したのは、インターンシップが1日だけの日程だったが、ワンデー仕事体験であるのかが分からず、事前学習の必要性に戸惑った。そのため、明確に明記してほしいと感じた。また、テキストブックや事前学習動画は、誰でも見ることが出来るように、Webページや動画サイトに一般公開しても良いのではと思った。
- 事前学習に関しては、色々不明なことが多く、手をつけられなかった。私は、自分の興味がある企業のインターンシップに参加するだけで、時間がいっぱいなので、事前学習などの制度はそもそもなくしてほしい。
- インターネットで調べた際に複数「とっとりインターンシップ」に関するHPがたくさん出てきたのとHPでのインターンシップの参加の応募がやりにくいなと感じました
- 気になった点などは特にありませんが、非常に丁寧に対応していただき、感謝しております。

# ■ まとめ（参加データ／学生アンケートより）

## 【学生アンケート・参加データから見える傾向】

### ①参加動向の変化

- 参加目的は「仕事・業界理解」が中心で年々明確化
- 夏は幅広い業界探索型、春は就職準備・比較検討型へ役割が分化
- 学生の意思決定は「体験→理解→選択」の流れで進行

### ②企業選択・参加の特徴

- 企業選択は業種・職種理解、実習内容、地域性を重視
- 対面・2～5日型を中心とした“実務体験志向”が継続
- 一方で1dayやパッケージ型など選択肢の広がりも見られる

### ③満足度・参加効果

- 満足度は「満足・非常に満足」が大半を占め高水準
- 評価の中心は「業種・職種理解」「仕事理解」「職場理解」
- 実務体験と社員交流が満足度向上の主要因

### ④今後の志向・進路傾向

- 現場体験型プログラムへの参加意向が最も強い
- 春は選択・絞り込み、夏は探索・拡大という二段階構造
- 進路は県内志向が安定しつつ、県外学生の県内就職も一定数存在

## 【総括】

- 👉 学生は「夏に広げ、春に絞る」構造で意思決定を行い、  
**インターンシップは“就職活動前段の標準的接点”として定着**

# 企業様アンケートまとめ 結果まとめ

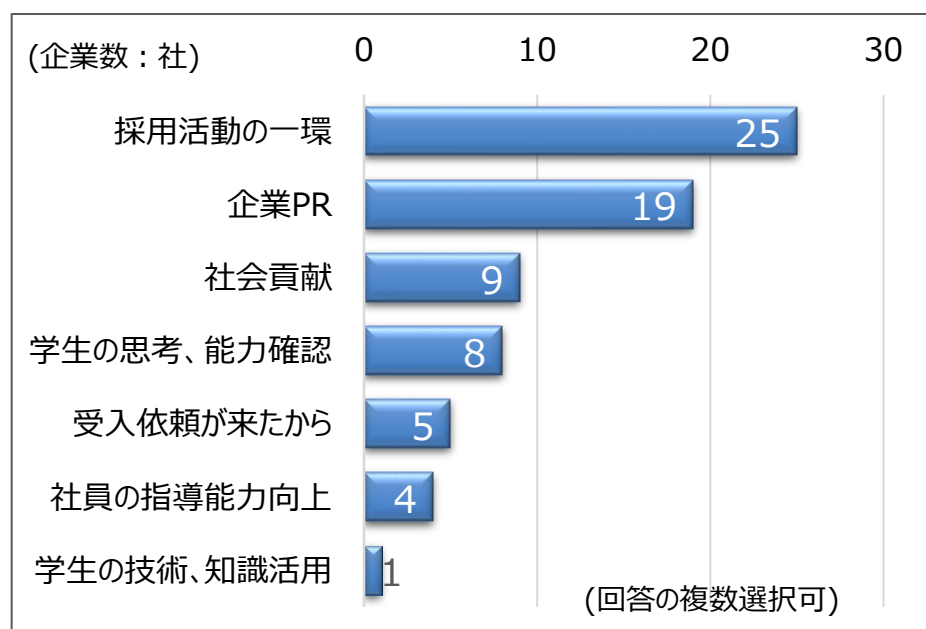
◆アンケート期間 : 2026年3月26日～4月10日

◆アンケート回答数 : 27社 (回収率 61%) ※パッケージ型参加を含む受入企業44社に依頼

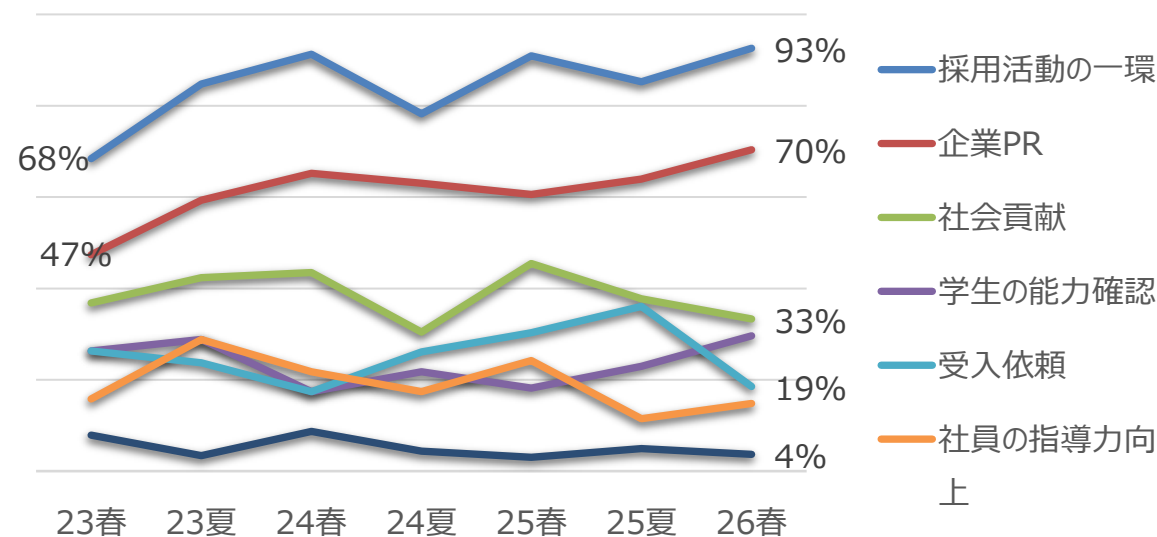
- インターンシップ受入目的 / 受入評価
- 感心したこと / 受入の新たな気づき
- 募集経路 / 今後の受入れ形態
- ご意見、まとめ

# ■ インターンシップ受入目的／受入評価

インターンシップ受け入れ目的

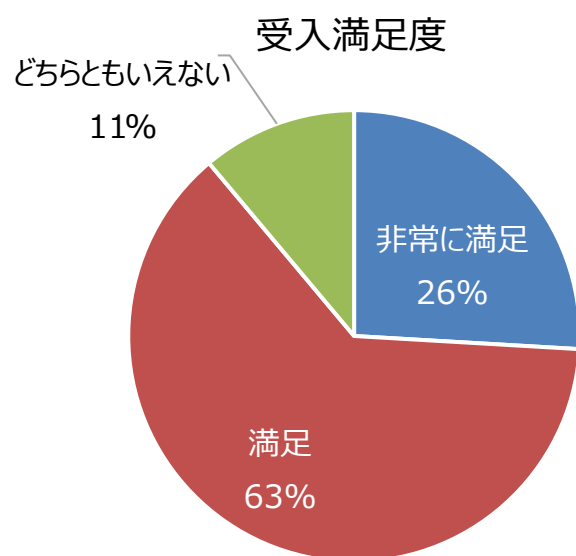


推移

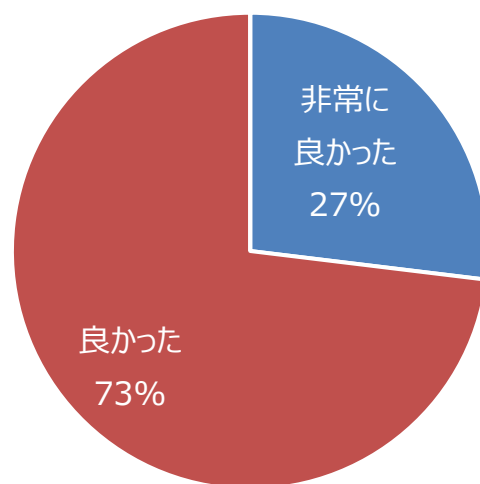


受入目的は「採用活動の一環」が一貫して最も高く、企業PR・社会貢献・能力確認なども含めた“複合目的化”が進行  
直近では春は採用・企業PRなど多面的評価志向が強まり、夏は採用接点と社会貢献のバランス型で推移

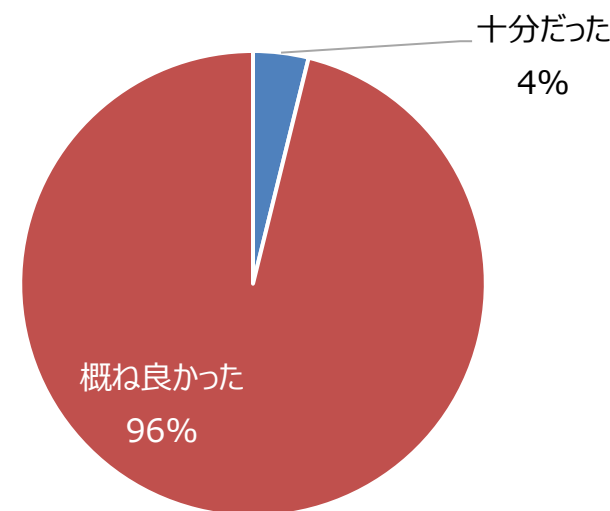
満足度、学生への評価



姿勢・態度



理解力・スキル



受入満足度は「満足・非常に満足」が大半を占め、学生評価も「良い・非常に良い」が中心で全体として高評価で安定  
理解力・スキル面も概ね良好で一定水準を維持

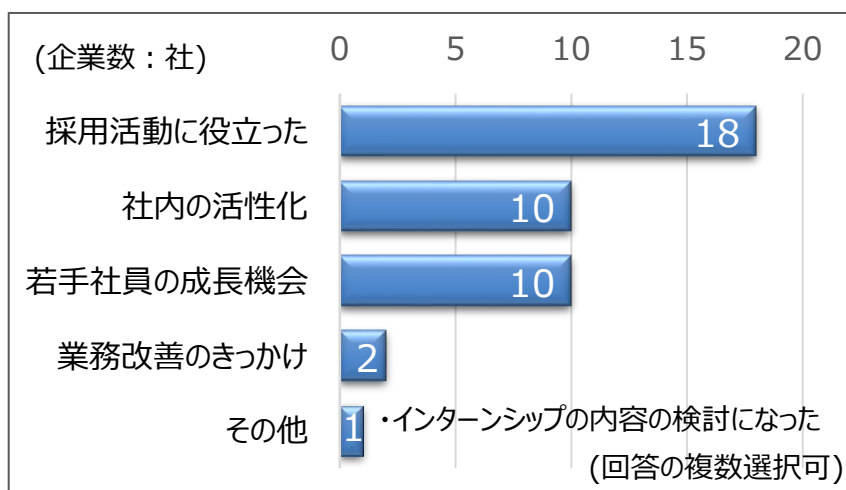
# ■ 学生に感心したこと／受入の新たな気づき

## 学生に関して感心した点や、気になった点

カテゴリ	コメント
感心した点	コミュニケーション <ul style="list-style-type: none"> <li>業界や仕事研究として積極的に学ぼうとする姿勢が良かった</li> <li>元気に挨拶が出来、コミュニケーションが取れていた</li> </ul>
	主体性・積極性 <ul style="list-style-type: none"> <li>想像以上に主体的に取り組んでいただき、弊社側も学びがあった</li> <li>積極的な学生が多く良かった</li> <li>社員に質問してもらうために、あえて大雑把な説明で課題に取り組んでもらったが、自分なりに考えてクオリティの高い成果物を出してくれたので驚いた</li> </ul>
	参加姿勢 <ul style="list-style-type: none"> <li>インターンシップ参加の目的は明確で、積極的に取り組んでいました</li> <li>今期1年生の参加もあり、早期から意欲的に活動されていて素晴らしいと思いました</li> <li>意欲的である点。プログラムを見て参加していただくので、弊社に興味を持って体験にきていただけるのはとても利点です。さらに多くの大学からの参加をしてもらえるようにプログラムの題名からもう一度考えていきたいと思えます</li> </ul>
	ビジネスマナー <ul style="list-style-type: none"> <li>基本的なビジネスマナーや言葉遣いなどが身につけている方が多かった</li> </ul>
	その他 <ul style="list-style-type: none"> <li>全体的に、当社の用意していたプログラムに熱心に取り組んでくださいました。質問や意見を準備くださる学生もおられて大変嬉しく感じました</li> <li>興味のある職種・業界であれば遠方からでも事業所に来ることに感心しました</li> </ul>
気になった点	<ul style="list-style-type: none"> <li>緊張するとは思うけど、もう少し「自分」を出してもらいたかった</li> </ul>

学生の主体性・積極性やコミュニケーション面を中心に肯定的評価が多く、総じて良好な印象

## 受け入れを通じた効果・気づき



## <新たな気づき>

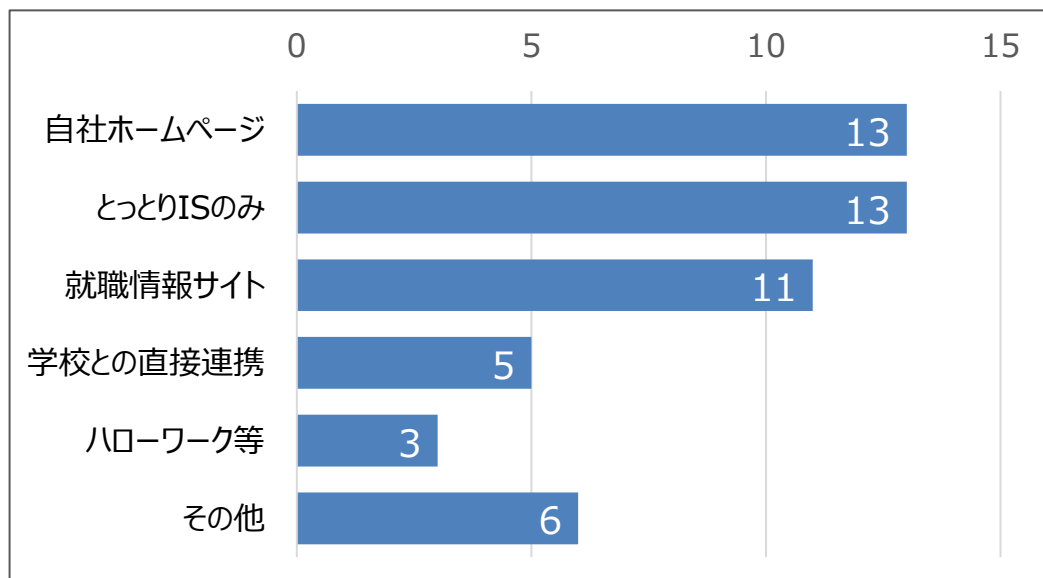
カテゴリ	まとめ内容	代表コメント(抜粋)
学生理解	学生との関わりを通じて、若い世代の考え方を理解し、自社の指導や伝え方を見直す機会となった	<ul style="list-style-type: none"> <li>今の学生が就職先に求めること</li> <li>参加する学生さんの学ぼうとする意識が強くなっているように感じました</li> <li>学生も就活が早まってきているのを感じる</li> </ul>
社員への刺激・育成効果	社員が学生を指導する中で教育力が向上し、社内の連携やチームワークの強化にもつながった	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテルの企画を体験していただく中で、私たち社員にはないアイデアが出てきたので今後の参考にしたいと思います</li> </ul>
その他	個別的な気づきなど	<ul style="list-style-type: none"> <li>想像以上に参加いただくことが難しいと感じました</li> <li>低学年者向けの体験メニューも増やした方が良かったと感じました。</li> </ul>

企業側の受入効果としては「採用活動への寄与」が最も多く、インターンシップが主要な接点となっている

また「社内活性化」や「若手育成」に加え、受入準備を通じた業務改善や学生理解の深化など副次的効果も見られる

# ■ 募集経路／今後の受入れ形態

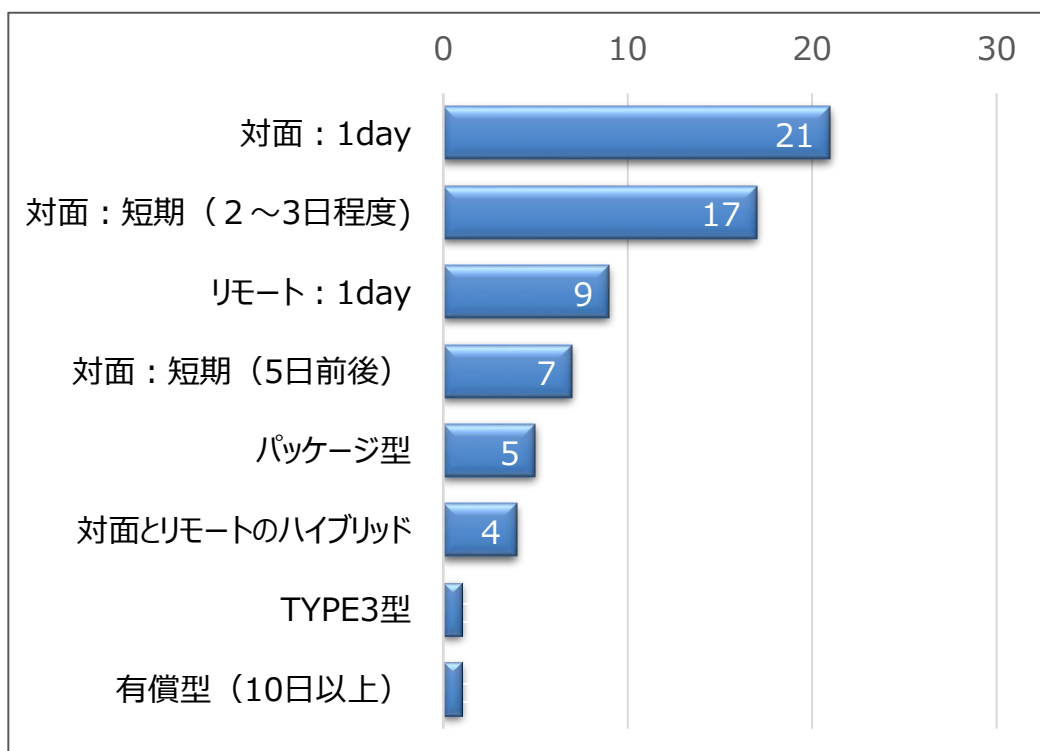
学生への募集経路



企業様側の募集経路は「自社HP」と「とっとりISHP」が主要で、制度サイトと企業広報の併用構造が定着

加えて就職情報サイトや学校連携など複数チャンネルも活用され、接点の多様化が進んでいる

今後検討している受入形態



検討理由

カテゴリ	まとめ	代表コメント
1day志向	入口としての受入・参加しやすさ重視。社会貢献や機会提供の意識が強い。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・1日でやりたいことがしっかり完結できるため</li> <li>・学生が参加しやすい形にしたい</li> <li>・社会貢献の意味合いが大きく、入口を広げたい</li> <li>・学生に多様な選択肢を提供したい</li> </ul>
短期型（2～3日）	現場負担とのバランス重視。指導体制や業務都合から現実的選択として最多	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2日程度が当社側の負担として適切</li> <li>・指導人員数が十分でなく長期は難しい</li> <li>・業務との兼ね合いから2～3日が現実的</li> <li>・短期間であれば受入可能</li> </ul>
パッケージ型	単独企業では難しい体験補完として関心あり。選択肢拡大ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> <li>・パッケージ型に参加したい</li> <li>・学生に複数の選択肢を提供したい</li> </ul>
オンライン型	新しい受入形態として関心はあるが限定的。柔軟性や負担軽減目的	<ul style="list-style-type: none"> <li>・リモート形式での受入も検討したい</li> <li>・学生参加のハードルを下げたい</li> </ul>

今後の受入形態は、業務負担とのバランスから2～3日程度の短期型を主流としつつ、学生との接点拡大の観点から1day型やパッケージ型など多様な受入形態への意向も見られた

# ■ とっとりインターンシップへのご意見、まとめ

企業様のご意見	
運営に対して	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 交通費や宿泊費の助成はありがとうございました。引き続き学生へのPRをお願いいたします。</li> <li>• 昨年度同様、イベントや研修には積極的に参加し、中央会の方々とお話ができる機会をもちにこうと思っています。どうぞよろしくお願い申し上げます。</li> <li>• パッケージ型で他社さま(同じ業界)と合同ですることがはじめてだったのですが、合同ですることで当社の属する業界は職種、業務ごとに会社がそれぞれ違うのだということを知ってもらえる良い機会だったと思います。</li> <li>• 学生一人ひとりに寄り添った丁寧なご対応や、「パッケージ型インターンシップ」など多角的に業界を知ってもらうための工夫に深く感謝いたします。今後も、鳥取での就職を希望する学生の方々に、地域の企業の魅力をしっかりとお伝えし、お役に立てるよう努めてまいります</li> </ul>
パッケージ型への関わり	<ul style="list-style-type: none"> <li>• そもそもBtoB企業であり、なかなか選んで頂けない。しかし、参加して頂いた学生はとてもよかったと言っている。総合商社として事業の幅も広いことから多くの企業とのコラボは可能と考える。</li> <li>• 一緒に参加する企業のインターンシップのやり方、打ち出し方など勉強させていただく機会と考えています。一緒に鳥取県の企業を盛り上げようという気持ちになれるのもやりがいを感じます。</li> <li>• 業界（建設業）的にアピールのチャンスだと思うため、今後も積極的にかかわってまいります。</li> <li>• 当社がお役に立てる機会がありましたら、是非お声がけいただけたらと思います。 ・一度に大人数を受け入れることができない</li> </ul>

## 【企業アンケート結果まとめ】

### ①採用活動への効果

- 採用活動の一環としての活用が最も多く、採用接点として定着
- 学生理解の機会により、母集団形成や採用判断の前段階で機能
- 県内外学生の接点拡大により、採用対象の裾野拡大にも寄与

### ②組織・人材育成への効果

- 社内活性化や若手社員の育成機会としての効果も高く評価
- 学生指導を通じて社員の説明力・育成力向上につながっている
- 受入過程そのものが社内コミュニケーションの活性化要因となる

### ③プログラム改善・企業理解

- 学生との対話を通じて、自社業務や伝え方を見直す機会となる
- 新たな視点や提案が生まれ、業務改善や企画見直しの契機となる
- パッケージ型等を含め、多様な受入形態への関心も見られる

# 今夏に向けてのお願い

- 今夏に意識したいこと
- 今夏のお願い①
- 今夏のお願い②、③
- 全体まとめ

## 1 学生の参加行動の理解

- 夏：業界・企業を広く知る「探索型参加」が中心
- 春：志望先を絞る「比較・確認型参加」が中心
- 参加行動は「体験→理解→選択」の2段階構造が定着

## 2 企業側の受入効果の広がり

- 採用活動の一環としての活用が主流化
- 社内活性化・若手育成など副次効果も拡大
- 学生理解を通じた採用判断精度の向上が進む

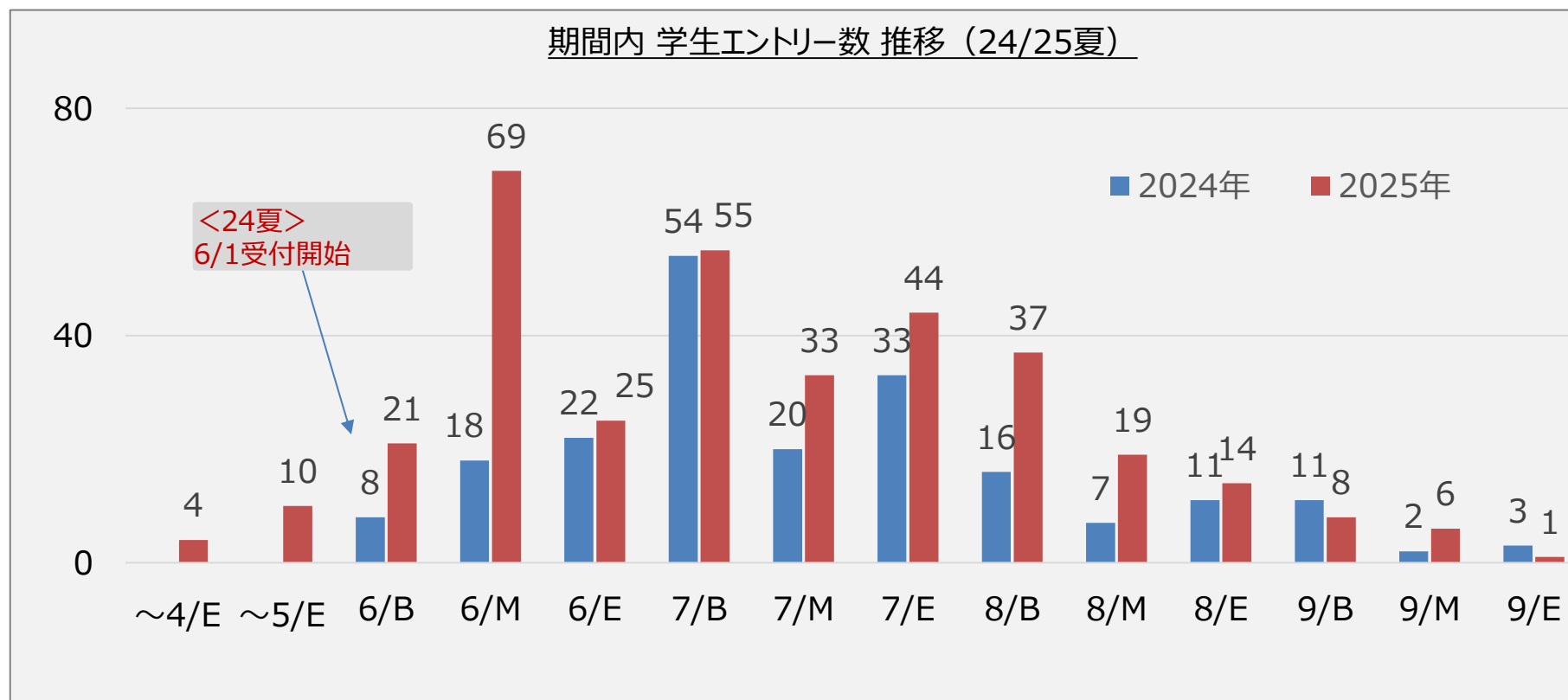
## 3 現状の課題

- プログラムの公開時期により参加機会に差が発生
- 体験内容の見え方によって応募数にばらつき
- 受入設計の違いが学生体験の質に影響

インターンシップは「探索（夏）→選択（春）」の流れで定着し、  
**“情報の出し方と設計の違い”**が成果を左右する段階に移行している

# ■ 今夏のお願い①

## ① 早めのプログラム登録を！



就職情報サイトの解禁と重なった6/Mにピークを形成、その後も7月から8月上旬までエントリーが活発に続く  
学生アンケートでも、実習内容や日程を見て選ぶ傾向が見られる

- ◆ エントリーは早期掲載ほど増加
- ◆ 特に県外学生は早期公開依存が高い
- ◆ 夏のピーク（6～7月）前に準備が重要

### お願いしたいこと

- 日程や内容が完全に固まる前でも、まずは概要登録をご検討ください。
- 学生は6月中旬以降に大きく動き始め、比較検討の対象に入るには早めの掲載が有効です

学生に見つけてもらうためには、早期掲載が最初の一步です

# ■ 今夏のお願い ②、③

## ② 学生へ伝わるプログラム作りを

- ◆ 仕事内容が明確に伝わる設計
- ◆ 1dayでも体験要素の可視化
- ◆ 学生満足度は“体験の具体性”に依存

### 学生の声から

現場での仕事体験や若手社員との座談会への関心が高く、具体的な仕事内容・職場の雰囲気や伝わる内容ほど、参加後の理解につながっています

### プログラム設計のポイント

- ・タイトルで仕事内容が分かる
- ・1日の流れや体験内容が見える
- ・社員との交流や質問時間を入れる
- ・短時間でも体験・振り返りを入れる

## ③ 助成制度の案内について

	助成内容	助成金額	助成の年度内上限
交通費	<b>県外大学等の学生</b> 県外居住地～県内居住地の往復交通費 <b>&lt;条件&gt; 四半期の期間中に延べ2日以上参加</b>	交通費総額が (1) 1,000円以下の場合 <b>一律 1,000円</b>	交通費+宿泊費の <b>年度内助成上限</b> <b>90,000円</b>
	<b>全ての学生</b> 県内居住地～実習先の往復交通費	(2) 1,000円を超える場合 <b>実 費</b>	
宿泊費	<b>全ての学生</b> 宿泊が必要な場合の宿泊費 <small>※対象条件など、詳細はお問い合わせください</small>	宿泊費が必要と認められた場合 <b>実 費</b> 但し、1泊の上限は8,200円	

### 助成制度案内のお願い

- 学生への案内では、県内来県による交通費支援の適用条件を2日以上の実習参加としています
- 特に**ワンデーの実習を掲載されている企業様**は、自社への単独参加のみでは助成できません
- 当該学生へは他プログラムの参加も合わせて**2日以上の実習参加が助成条件**だとお伝えください（運営側からも学生へはアナウンスは行います）
- 制度内容をご確認のうえ、ご案内にご配慮いただけますと幸いです

- ◆ 今年度より助成上限を**年間9万円**まで拡大！
- ◆ 県外からの交通費助成は**延べ2日以上**が必要

## <今年度の主な特徴>

- 2025年度は参加学生数が過去最高
- 学生の参加は早期化・多様化しています
- 学生は仕事内容、職場の雰囲気、社員との接点を重視しています
- 企業様側にも採用活動、社員育成、社内活性化の効果が見られま

今夏も多くの学生が県内企業を知る機会を広げられるよう、  
受入登録と実習内容づくりへのご協力をお願いいたします

# ご清聴ありがとうございました

# ■ <参考> 2026年度スケジュール ー再掲ー

## ◆ 夏季と新緑、春季と秋冬の同時登録可能！

👉 夏・春の長期休暇中の受け入れに向けて、日程や詳細が未定でも早期登録で早めに学生確保

2026年度	第1四半期				第2四半期			第3四半期			第4四半期		
	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
新緑インターン	3/19	プログラム登録			5/20								
	4/1	HP掲載			6/15								
	4/1	エントリー			6/15								
夏季インターン	3/19	プログラム登録						8/31					
	4/1	HP掲載						9/30					
	4/1	エントリー						9/15					
秋冬インターン							9/18	プログラム登録		11/20			
							10/1	HP掲載		12/15			
							10/1	エントリー		12/15			
春季インターン		プログラム登録		企業プログラム登録期間			9/18	プログラム登録				2/28	
		HP掲載		ホームページへの掲載期間			10/1	HP掲載				3/31	
		エントリー		学生エントリー期間			10/1	エントリー				3/15	